

# 学 校 教 育

## 第1節 概 説

### 1 指導行成の基本方針

学校教育の目標は、児童生徒の学力を高め、生活指導を徹底して望ましい、人間を形成することにある。本年度県教育委員会の努力目標の第2項および第4項にもこ2点が掲げられている。学校教育課は、これを受けて、現職教育を充実し、新教育課程の趣旨内容の徹底をはかり、指導法を改変して学力の向上に努めると共に、人間尊重の精神に基づく道徳教育、生活指導の拡充強化に努めることになったのである。このために、本庁および出張所の指導組織の強化をはかり、現場教職員の指導力の育成に努めるかたわら各種の研修活動の活発化をはかり、現職教育を振興して、多数の教職員に参加の機会を与えて資質の向上と指導法の改善に努めてきたところである。特に本年は、調査研究所の資料に基づいて本県児童生徒の学力の実態とその原因をさぐり、対策を考究して問題点の打開をはかった。また生活指導について、生徒指導主事を中心とする校外生活指導の組織を育成し、更に小中高等学校との共同研究の機会を多くして一貫した指導技術の振興をはかった。

### 2 指導組織および運営

本庁指導主事は従来の10名の外、外国語および技術担当の2名を増員して12名とし、外に農業、商業の指導委員2名を加えて14名で小中高全教科を分担した。出張所は各管内2名あて32名の外、新たに市町村教委身柄の指導主事11名を加えて43名の大世界帯となった。出張所指導係の相談役として本年度も各管内5名あて計80名の指導委員が委嘱され、指導係の活動に協力して小中高校の強化指導に当たった。これらの組織の緊密化をはかり、指導の効果を高めるために、学校教育指導協議会を年3回開催し、また研修の一環として、教育書「特別教育活動。学校行事等の指導」A5版231ページの編集を行ない、また隔月間「学校教育」B5版25ページを配布して内容の充実した文書を併せ実施した。指導委員は、各出張指導係の手不足な教科を主とし、特殊な技術を伴うものについて委嘱された。その内訳は次のとおりである。

音楽15、英語14、図工13、技術・家庭13、家庭11、道徳7、国語3、保体3、理科1、計80名

昭和36年度指導委員

信夫 { 音楽 山田公子 大庭中  
 図工 鈴木 栄 湯野小

信夫	{	技家英	渡堀長	辺川部	好千久	光枝久	福工高 福農高 金谷川中	
		伊達	英技家	語家理	大慕原	友田口	寛一ヨ	醸芳中 保原小
			音楽	佐藤	藤政	夫	郷	保原高
安達	{	英音	語楽	浅武	沼藤	喜長	一英	本宮高 岳下小
		図技家	工家	二菅	瓶野	大三健	蔵	安達高 本宮一中
		家庭	佐々木	と	しこ			本宮高
安積	{	音図技	楽工家	土佐根	屋藤元	秀昭虎	子一雄	郡女高 行健中 郡工高
		英語	道	芳賀	沼陽	一勇	吉	郡一中 日和田小
		岩瀬	技音	家楽	深諸	沢根	正繁	二三吉
英語	道		蓬田	文雄			須二中	
西白	{	国語	吉村	俊夫				米小 中畑小
		技音	家楽	菊井	地実			中央中 五箇中
		英語	道	斎藤	賢一	弘		中央中
東白	{	音図	楽工	徳江	江田	栄一助		豊里中 棚倉商
		技道	家徳	鶴薄	巻井	厚保		棚倉小 塙小
		石川	図技家	工家	柴原	清良	悟中	
道徳	音		飯島	キイ	作		浅川中 浅川小	
田村	{	音楽	竹島	翠				学法石高
		技家音	家庭	久保田	菅野	今朝美	マツヨ	滝根中 田村高
		音楽	英語	八代	成美			沢石小 田村高
南会	{	英語	道徳	柳武	沼藤	与実		田村高 下大越小
		図工	家庭	室井	皆共			檜原中 田島中